



TITLE:

海外日誌(二一)

AUTHOR(S):

山本, 一清

---

CITATION:

山本, 一清. 海外日誌(二一). 天界 1924, 4(47): 449-452

ISSUE DATE:

1924-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160184>

RIGHT:

## 海外日誌 (二二)

山本 一情

四月三十日(水)

午前中、買物でホストン行。午後は天文臺。

五月一日(木)

今日からマゼラン小雲の第十二野の變光星測定にかゝる。今までの結果で見ると、短週期變光星の光度と週期は、シヤブレイ氏が力瘤を入れてゐる通りの一定不變なものでは無く、少なくとも、マゼラン小雲の或る部分では其の關係が違ふらしい。

夕方、散歩して、田中峰谷兩氏を訪ふ。

五月二日(金)

午後四時半から、シエフワソン物理學館でデブス教授の汽鑪車に關する講演をきく。聞きつゝ、大阪の百濟君の汽車好きのこゝろなぞ思ひ出す。

夕食に上井氏を招く。それから三人づれで市街を散歩。連れ立つて上井氏の宅に歸つて、暫くすると、圖らずも龜谷、田中、峰谷三氏が來られ、俄かに大勢で話す。

今日、うちのレデオに蜂巢コイルを用ひて見たが、大變成績が好い。

五月三日(土)

午前中は例により天文臺。

午後は、ミス堂本に招かれて、ウエレスレイ女子大學の五月祭りに見に行く。二時頃、丁度、高塔館の前庭で、メイ柱のまはりに少女たちの美しい舞劇を見、それから堂本母子に附近の建物の内外を案内して貰ひ、五時頃、一旦縁枝家に歸つて御馳走。それから又校庭に出かけ、チャペルの石段で行はれる來年度新幹部の任命式の花やかな様子を見た。日本の女學生に比べて、米國女學生のいかにも

延び／＼としてゐるのを好いこゝろだと思ふ。

九時頃、歸宅。

五月四日(日)

日和が好いので二人で天文臺の丘まで散歩。正午、チャペル禮拜から出て來た北澤藤原兩君等とチャルス川のほとりまで行き、途中ルノズベルト記念館やランブリン館などを見る。

午後は在宅。英子は少々疲れて眠る。

五月五日(月)

マゼラン小雲の變光星の週期計算が面白く進捗する。何でも仕事さいふものは、慣れて見れば、慣れない前の二倍も三倍も速く進むのだ。

シヤブレイ氏の厚意により、新城教授の近著「變光星の流星論」を讀む。シヤブレイ氏は此の論理の行り方を大に賞讃してゐた。

五月六日(火)

午前中、研究。

午後、急にミス・カノンに誘はれ、ミセス・マーシユ、ミセス・デウ井及び英子を加へ、總勢五人で自働車に乗り、東ケンブリヂ、チャルスタウン、エズレットを経て、レザア濱からリンあたりまでトライグレスラムスカットのブレイカー・ホテルで少憩。それから又元の道をケンブリヂに歸る。天氣が好くて心地甚だ爽快であつた。と同時に、ホストンにも加州のビーチのやうな俗つばい歡樂地のあることを知つた。今は未だ夏場としては早過ぎるけれど。

午後六時よりは、外國學生親睦委員に招かれ、ホストンのパパテスト教會へ行つて、大晚餐會に出た。可なり大勢で御馳走もおいしかつたが、食後、ブラウン大學のセームス教授がやつた米國式の御用演説には全く氣を悪くして了つた。後に手品などがあつて、少しは氣をよぎらせたけれど、結局、日本人一同は不快な心地で歸つて了つた。——米國には大學教授と雖もひどいのが居る。

五月七日(水)

今日は水星のトランシットがあるので、キング教授は午前計算や

ら機械の調整などしてゐられた。午後五時四十分トランシット始まりキング氏はホキー君を手傳ひとして十五時望遠鏡で観測せられた六時はライテン君が使用するを聞いてゐたから自分は別に何も豫定をせずにゐたが、ライテン君は其の時刻になつて、要するに計算室の婦人たちは大勢連れて来て、ワイ／＼騒いでゐたのに過ぎなかつた。第二觸がすんでからは天文臺員は言ふに及ばず、シヤブレイ方の子供たちも皆十五時の塔に上つて、交る／＼此の珍らしい水星の姿を眺める。宅からは英子も来た。——又、歸途、街上で双眼鏡を眼にあて、太陽を眺めてゐる人たちもあつたが、太陽が西へ低く沈むと共に空の雲が濃くなつて来たから、望みは少なかつた。——日本あたりは如何であつたらう？

#### 五月八日(木)

シヤブレイ臺長の幹旋により、自分は今日から正式の職員となる何の手違ひからか、文部省その音信が絶えて了つた氣がする。渡歐は船便の機を失したので、まゝよさ、来る九月まで當地滞在、研究を續けることに決定。

夜、ミス・カノンとミセス・マーシュに連れられて、ホストンのシンフォニー堂にボツプ・オーケストラを聞きに行く。今夜は特にウエレスレイ女子大學の夜なので、ミス・カノンは御得意らしく見えた。樂室内はドイツ式さかで一才違つた構へ方が面白いと思つた。音樂の指揮者はヤキア氏で、前のモントー氏のやうな威嚴ぶらない自然のまゝの指揮ぶりが氣に入つた。

#### 五月九日(金)

急に寒い。午後四時半から、シェファソン物理學館でヒアース教授のレデオ増音法に關する講演をきく。室住、加藤、ブラツク三氏も見えてゐた。

夕方には宅へ上井北澤を招き、うごんの御馳走。

#### 五月十日(土)

午前中は天文臺。

午後は二入でホストンへ行き、園藝學館で今開催中の熱帶植物展覽會を見、それからフエンエイ公園を通りぬけて、クインズベリー街に増原ドクトルを訪問。笠原夫人、久保田氏等と共に夕食を頂いて十時頃歸宅。

#### 五月十一日(日)

どうも氣候が不順で、寒い。十一時に朝食をたべて、それから散歩。

#### 五月十二日(月)

朝六時、滅法に早起き。八時四十五分からアブルトン堂で禮拜。それからブルクス館にデビツ氏を訪ふ。九時半からは天文臺行き。午後五時過ぎ、サクラメント街あたりで貸室をさがして見たが思はしいのが見當らない。

寒いので、英子は室にストーガを入れる。

日本の總選舉が英字新聞に報ぜられる。可なり詳しい。

#### 五月十三日(火)

今日は朝れ坊して、十一時に天文臺行き。

久しぶりで空が晴れた。今迄は全く日本の梅雨の頃みたいな曇り方で、うすら寒くもあつた。

夕方八時から、コナント館の數學會に出席。ケンブル氏の量子論をきく。

今夜、天文臺では天文クラブの第三回が催され、大小幾つかの望遠鏡で天體の觀望が許される筈であるが、此の曇りでは？

#### 五月十四日(水)

朝七時起床、チャペルを経て天文臺へ九時に出勤。夕食後、チャルス河のはざりを散歩した。まことに心地が好かつた。

ミドルタウンのスローカム教授が、レンズ取り換へのために二十一時の望遠鏡の筒の中へもぐり込んだといふことが、去る八日の一新聞から切り抜かれて、天文臺の掲示板にはりつけられてあつた。

#### 五月十五日(木)

天文臺で第二十四野及第三十六野のマゼラン小雲變光星の週期決定を終る。

ニウヨーク新聞により、日本の總選舉の詳報を知る。

五月十六日(金)

今日からマゼラン小雲の第十二野の研究に精を出す。

午後四時から、室住、安藏兩氏と同道し、ヒノアス館でクリフトン教授の電燈照明に關する講演を聞き、歸途、宅に兩氏を同道して夕食。

五月十七日(土)

朝十時から天文臺。

グリシユ教授の談によれば Harvard College といふものは正式に存在するけれども Harvard University といふものは存在しないんださうな。

五月十八日(日)

大變に朗らかな好い天氣なので、朝十時頃から、二人で、新聞紙をかゝへてチャルス河畔へ出かけ、青草の上に腰を下して暫く時をすごした。

午後は宅で、レデオのレフレキス式のものを作る。

夕方、田中、峰屋兩氏と、又、チャルス河あたりを散歩。

五月十九日(月)

十時から天文臺。

新緑のケンブリヤも大變好いものだ。今までは、すつき、冬枯れの景色ばかり見てゐたのだが。

五月二十日(火)

また、空が曇り始めて、寒い。

天文臺で、シヤブレイ氏にマゼラン小雲の變光星研究結果を見せた。今日からは、又、第十一野を測り始める。

夕方、上井、龜谷、加藤諸君來訪。

五月二十一日(水)

夜、家の主人ダン氏が手製のアイスクリームを呉れた。始め、之

れは押し賣りに來たものと早合點し、「ノー、いらない」などと言つたり、大失敗であつた。

五月二十二日(木)

午前中、天文臺。

午後、二人でホストンのコロニアル劇場へ「バカダの盜賊」を見

に行つた。フエアバンクスを主人にしたもので、上山草人氏が仲間入りしてゐるといふ評判に引かれて見に行つたのであるが、筋は全く尋常小學三年生が見て喜ぶ程度の低いものであつた。上山氏の藝は、一體に固くなり過ぎて、頗る満足であつた。

夜、リフレキス受話器のクリスタル部でWGIをきく。

五月二十三日(金)

今日は暖くて、空は晴れ。朝から天文臺で、第十一野の變光星の週期決定を終る。

五月二十四日(土)

午後一時、天文臺から歸つて、食事を終つた頃、突然、電話の呼び出しがあつたので、出て見ると、圖らずも東京から來た岩村清四郎氏夫妻がハーバード大學の事務所に待つてゐるその事であつたので、早速、二人で飛び出し、大學のヤードで面會。一先づブルクス館へ行つて、水など飲んだ後、一同電車でホストンの博物館へ行き二時間ばかり費して陳列品を見る。此のミュージアムの日本物は幾てからやかましく評判ものだを聞いてゐたが、それにしては豫想ほどのことも無かつた。

博物館から次に市立圖書館に行つて、有名なサー・ウィントンの壁畫を見、六時頃、ケンブリヤの宅に歸り、日本食を饗す。

食後、たまゝ來訪せられた藤原氏を加へ、一同、岩村氏から東京大震災の實見談をきく。窓外は雷雨。

五月二十五日(日)

午後三時頃から、日和の好いのに釣られて、散歩。先づケンブリヤ・ボートで有名なオルヴァークの望遠鏡製作工場あたりへ行き、草深い園内に錯びたまゝ、立つてゐるレンス試験用の赤道儀、及

び天頂儀、それから塔上にある小ドームなどを撮影した。ヤーキースやリクの天文臺にある大きなレンズが皆此所で出来たのかと思ふ感じが深い。

それからチャルス河堤に沿ふて、散歩し、ハーバード橋を渡つて次にはボストン側の河岸公園を散歩し、遂にボストンのコンモン園からワシントン街に出て、活動寫眞など見て歸る。

#### 五月二十六日(月)

天文臺のフイシア教授より、来る八月二十九日の月蝕時に於ける日本の諸所の氣象觀測結果を集めた希望を申されたので、自分は東京の岡田中央氣象臺長に依頼狀を書いた。

クリザ大統領が排日條項を含む新移民法案に署名した。日米間の外交交渉が尙一段と難境に入るかも知れない。

#### 五月二十七日(火)

今日は自分の誕生日なので、午後七時、ブラック夫妻を宅に招いて日本食を饗應した。二人とも箸は全然落第であつた。

#### 五月二十八日(水)

午後三時から、天文臺では消火法に關する臺員一同の小集會が催され、ゲリシ教授から一場の講話があり、それから消火器の實地演習があつた。どこでも同じ様なことをやるのだらう。

夜、水野、田中、峰谷 安藏諸氏來訪。

#### 五月二十九日(木)

かねてから天文臺の揭示板に掲げられてあつたことに據り、今日は朝九時ボストン北停車場から發車して、リン市に行き、センター街のゼネラル・エレクトリック會社工場の内部を參觀した。十一時頃一同に對し 職工のメンタル・テストの結果に關する講演などがあつたのは面白かつた。

午後一時頃、晝餐を饗せられ、後又暫く參觀して、五時に歸宅した。

#### 五月三十日(金)

今日はメモリアル・デーで、米國は全體休日であるが、自分は午前

中、天文臺へ行つたら、やはり四五人の人が來て研究を餘念なくやつてゐた。

午後はサーカスを見やうと思つて、二人で南ボストンまで行つて見たが、非常な混雜で、とても入場が出来ない。そこで轉じてトレモント會堂で歐洲大戰の實寫活動畫を見た。

#### 五月三十一日(土)

單獨に、マウント・ホリヨーク大學に於けるアメリカ變光星觀測者會(A.V.S.O.)第十三回春期總會に出席するつもりで、朝六時四十分にボストン北停車場からB.M.鐵道線に乗つた。車中は四時間、窓外の景色は大體平凡であるが、バーリンあたりに川や湖水の景色が少しく好かつた。

十一時、アマースト驛着。南ハドレイから參觀に來てゐる客の會員たちと、當大學天文臺で會ふだらうと思つてゐたが、生憎歸り去つた後であつたので、自分も直ちに電車で南下した。

午後二時半から、マウント・ホリヨーク女子大學天文臺内の講義室で總會開會。ミス・ヤング教授が會長として座長席につき、諸委員の報告があり、次いで二三の論文朗讀があつた。自分は此の席で「B.D.星表にある變光星の統計研究」を讀んだ。

午後七時から、カレザ・インで晚餐會。食後、D.B.ビケリング君の座長の指名で十名ばかりの者が演説をした。自分も日本の天文同好會のことを話した。學術を背景とした會合とせば、誠に豫想外に打ち解けた、又、くつろいだ親しさのある會であつた。

夜は自分は南ハドレイ村のドクトル・ラング氏方に泊まる。

#### 六月一日(日)

カレザ・インで朝食後、道端でビケリング、オルコット兩氏と暫く立ち話し、それから大學のチャペルで禮拜す。自分はミス・ヤング教授に招かれて、ピアソン館の食堂に入つた。それから新築のロクフェラー館を見せられた後、午后三時發の電車に乗つて此の地を辭し、ホリヨーク市で乗り換へ、四時頃スプリング・フィールド着。同地發五時のB.A.線列車でボストンに歸る。宅へは九時。